

第4学年 「特別の教科 道徳」学習指導案

指導者 三浦 哲

1 主題名 「友達のよさを知る」 B 友情、信頼

2 「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

指導内容の「系統性」

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第7・8・9学年
友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

第1学年及び第2学年では、学級での生活を共にしながら様々な経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。そこで、身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

第3学年及び第4学年では、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで友達とトラブルを引き起こすことも少なくないため、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。

第5学年及び第6学年では、趣味や傾向と同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向が生まれる。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになる。このことから、友達同士の相互の信頼の下に、眞の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようになることが求められる。

中学部では、友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であること、互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させる。その上で、人間として互いの人格を尊敬し高め合い、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していこうとする意欲や態度を育んでいくことが肝要となる。

3 教材名 「ぼくらだってオーケストラ」

4 ねらい 友達と互いに理解し励まし合いながら、よりよい関係を築こうとする心情を育てる。

5 本時

(1) I C T活用

学習場面	導入	展開	終末
学習活動	内容を共有する	考えを広げる・深める	自己について問い合わせる
タブレットPC	・教材への理解を助ける 	・教材提示 	

(2) 展開

学習内容・活動		・指導のポイント	★評価
導入	<p>1 事前アンケートを基に、「友達がいることのよさ」について考える。</p> <p>○どんなときに、友達がいてよかったですなと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っているときに、助けてくれた。 ・いっしょに遊ぶと楽しい気持ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用 事前アンケートの結果を提示することでねらいとする道徳的価値についての課題意識をもたせる。 ・道徳的価値について、自分の生活と照らし合わせて考えられるようにする。 	
展開	<p>2 教材「ぼくらだってオーケストラ」を読んで話し合う。</p> <p>○「右手の小指、あなたが半分空いている。」と、なつみに言われたてつおは、どんな気持ちになったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちいちうるさいな。 ・逆上がりもできないくせに。 <p>○なつみが楽譜にドレミをふっているのをだまって見ているてつおは、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いてもらわなくても分かるよ。 ・助かるけれど、うまく言えないな。 <p>○なつみが自分のことのように喜んでいるのを見たてつおは、どんなことを考えていたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なつみのおかげだよ。ありがとう。 ・こんなに喜んでくれてうれしいな。 ・僕もなつみのために何かしてあげたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用 教材の場面絵を提示する。 ・なつみの指摘を受け入れられないつおの気持ちをおさえる。 ・てつおの気持ちが変化してきたことに気付くようにする。 ・友達としてお互いのよさを生かして助け合うことの大切さに気付かせる。 ・ペアで話し合いをさせる。 <p>★てつおの気持ちの変化に気付くことができたか。</p>	
	<p>3 自己の振り返りをする。</p> <p>○これまでの自分を振り返り、友達との関わりについて考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けてもらうばかりで、友達のことを助けることがあまりできていなかった。 ・教え合うことで、一緒に成長することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書かせる。 ・これまでの友達との関わりを思い出させたり、これから友達との関わりを考えさせたりする。その際、「高め合う」という視点から友達のよさが捉えられるようする。<問い合わせ> <p>★友達のよさについて考えを深めることができたか。</p>	
終末	4 教師の説話を聞く。		

第9学年 道徳科学習指導案

1 主題名 「心から信じあえる友を」 B 友情、信頼

2 「小中一貫教育」を通して具体化する視点

指導内容の「系統性」

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第7・8・9学年
友達と仲良くし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

第1学年及び第2学年では、学級の生活を共にしながら様々な経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。そこで、身近にいる友達と一緒に、仲良く活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

第3学年及び第4学年では、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで友達とのトラブルを引き起こすことが少なくないため、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。

第5学年及び第6学年では、趣味や傾向と同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向が生まれる。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになる。このことから、友達同士の相互の信頼の下に、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようになることが求められる。

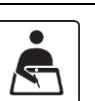
中学部では、友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であること、互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させる。その上で、人間として互いの人格を尊敬し、高め合い、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していこうとする意欲や態度を育んでいくことが肝要となる。

3 教材名 「私を支えてくれた言葉」

4 ねらい 互いに信頼し、人間としての成長を願って励まし合い、高め合って真の友情を育てようとする心情を育てる。

5 本 時

(1) I C T活用

学習場面	導入	展開	終末
学習活動	主題や教材の内容を整理・共有する	考えを広げる・深める	自己について問い合わせる
タブレットPC			

(2) 展開

	学習内容・活動	・指導のポイント ★評価
導入 (7分)	<p>1 主題の提示 本時の主題が「友達」であることを確認する。</p> <p>2 事前アンケートの結果を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;"> 私のことを思って友達が言ってくれた言葉 </div> <p>3 ワークシート配付 「主題について」と「自分との関わり」について、チャートの中で今の自分に一番近い場所に点を打つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書「心から信じあえる友達を」 ・「私のことを思って友達が言ってくれた言葉」について、事前にアンケートを取り、その結果をプレゼンテーションソフトにまとめたものを提示する。 ・友達がどのような存在かを改めて考えさせる。 ・直感で点を打たせる。
展開 (38分)	<p>4 「私を支えてくれた言葉」を読んで話し合う。 教材の範読を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;"> (1)「私」が、もう一人の自分を作りだして友達と付き合うようになったのは、なぜだろうか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;"> ※【補助発問】本音を言わなければ、友達とうまく付き合えるのだろうか </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;"> (2)友達に「もう一人でなやまないでね」と言われたとき、瑞季はどのようなことを思つただろうか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;"> (3)友達やお母さんの言葉から、「私」は友達と付き合ううえで、どのようなことが必要だと気付いたのだろうか。 </div> <p>(ア) 付箋紙に意見を書く。1枚につき、1つの考え。 (イ) グループで共有。班長を司会として全員の付箋紙を1枚の紙にまとめ、意見を整理する。 (ウ) ワールド・カフェ方式でグループを組み換え、出た意見等を共有する。 (エ) 特に「自分は考えていなかった意見やアイデア」をワークシートにまとめる。</p> <p>特に多かった意見や注目できる意見等を教師が全体に共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで意見を共有させてから、全体で共有する（板書）。 ・ペアで意見を共有させてから、全体で共有する（板書）。 ・1人3枚程度の付箋紙を配り、1人30秒程度で発表させる。 ・プレゼンテーションソフトを用いて、グループ分けを確認。（ウ）ではメンバーの付箋紙を貼った用紙を写真にとって、ロイロノートで共有する。 ★互いに信頼し、人間としての成長を願って励まし合い、高め合って真の友情を育てようとする心情をもって、友情というものを捉えることができたか。（評価材料：ワークシート、付箋紙および授業内での発言） ・話合いを通じて、感じたことや考えたことを書くことで、自分の考えを問い合わせる。<問い合わせ>
終末 (5分)	5 授業を通じて、感じたこと、考えたことなどについて、「今までの自分と比べて」「今日の学習で大切な考え方」「これからのこと」の3つの観点でワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの写真を参照して、友達の意見などを振り返りながら自分の考えをまとめさせてもよい。